令和6年度

富山育英センター 県立高校受験動向予想

第4回育英模試「実力判定模試」結果報告 富山地区&新川地区分析

昨年定員減の影響は今年も継続か 県立・私立・国立で自由な高校選び加速！

まずは、御三家（富山中部・富山・高岡）と呼ばれる3校の普通科定員が40名削減され、受験生に激震が走った昨年の富山県立高校入試の結果から振り返ろう。探究科学科を設置している3校でも徐々に差が出始めている。富山中部の探究科学科が定員80名のところに182名が出願し、2.28倍の高倍率となった。次いで、富山の探究科学科が1.71倍、そして、高岡の探究科学科については定員割れの0.96倍という結果であった。数年前までは全国的にも珍しく、かなりのブランド力があった『探究』というワードだが、最近では、他の高校や普通科においても、探究活動を行ったり、探究コースを設けたりしており、それほど特別な存在ではなくなっているのではないだろうか。

また、御三家の探究科学科と普通科をあわせた実質倍率は、富山中部が1.13倍、富山が1.12倍、高岡が1.02倍となった。富山中部・富山は例年よりも高倍率となり、普通科定員減の影響が多少あったと言える。

御三家に準ずる高校である、富山東の0.93倍、高岡南の1.02倍、砺波の0.93倍、魚津の1.01倍といった低倍率にも注目が集まった。しかし、もう一歩踏み込んで見ていくと、呉羽の1.22倍、富山南の1.15倍、富山いずみ総合学科の1.27倍、富山北部普通科の1.61倍、大門の1.19倍、小杉の1.14倍、滑川普通科の1.18倍、入善普通科の1.14倍等、高倍率が目を引く。原因として考えられることは、定員減により御三家を避ける生徒が前出の4校に流れると予想し、それを嫌った同4校を志願する生徒の一部が、志願変更をしたのではないかということである。しかし、結果はそれほど大きな雪崩は起きず、踏みとどまって御三家を受験した生徒が多かったのではないだろうか。

一方、各高校職業科においては、根強い人気をもつ前出の富山いずみや富山北部に加え、富山工業、富山商業、高岡工芸、氷見、桜井で倍率が高かった学科が多い。

次に、下記の資料をご覧いただきたい。これは毎年1月に実施する第6回育英模試の志望動向データを、昨年と一昨年の2年分並べたものである。多くの高校において、実際の倍率と密接な関係があることが読み取れるだろう。ただし、ひとつ注意していただきたいことがある。それは富山高専の影響である。富山高専の人気は変わらず高く、毎年優秀な生徒が同校を志望する。事実、昨年の富山高専の一般入試倍率は、国際ビジネス学科の倍を筆頭に、電子情報工学科の2.60倍など県立高校を大幅に上回る激戦となった。本郷キャンパスに比較的近い富山南と富山いずみ、射水キャンパスに比較的近い呉羽と大門は、富山高専を不合格となった生徒が受験する可能性が高い高校と言える。育英模試の第一志望者数からだけでは読めない数の生徒が受験すると思った方がよい。

今年度の育英模試はあと3回あり、第5回は明日12月3日(日)、第6回は1月7日(日)、最終回は1月28日(日)に実施される。ぜひ受験し、進学相談会等で正確な入試情報を入手してほしい。

次に、入試問題について振り返ってみたい。昨年の県立高校入試の平均点は、100点満点換算で低い順に、数学54.3点、理科55.4点、英語56.2点と、ここまでは例年通り。さらに、社会58.2点、国語65.3点と例年平均点が高い2教科も、昨年や一昨年より難化したといえる。

中学校学習指導要領改訂により、一昨年から新しい教科書になり、ほぼ全ての教科で、この新課程内容が出題された。英語は、筆記試験が40分という時間のプレッシャーに加え、長文読解の複雑さや新課程内容が受験生を苦しめたのであろう。英語の重要性が増す昨今、英語の筆記試験を50分にしてもよいのではないだろうか。また、各教科において、単純な暗記や処理だけではなく、知識を使いこなす応用力が試されるような問題が増えている。普段から、ひとつの物事に関して多方面からの視点をもつこと、他人の意見についての自分なりの考えを話したり書いたりすることを意識してほしい。

富山県立高校入試における教科ごとの詳細については、裏面の育英センター各教科責任者の分析に注目していただきたい。

最後に、令和6年度入試の変更点について見ていこう。富山県内の中学卒業予定者数は、昨年比127名減の8,625名となる見込みである。それに伴い、県立高校の全日制課程の募集定員は昨年比82名減の6,106名となることが発表されている。各地区の卒業予定者の状況から、定員が減少するのは、入善普通科（20名）、魚津工業（全学科合計15名）、中央農業（全学科合計2名）、小杉（10名）、伏木（15名）、砺波工業（全学科合計20名）である。また、これまで普通科において制限があった通学区域制度が撤廃される。これからは居住する市町村に関わらず、県内すべての県立高校を受験校として選択することができる。

近年は、県内外の私立高校が特色ある教育を実践しており、受験生の中には、その魅力にひかれて私立高校を第一志望にする生徒が多くなった。県立高校の受験校を決めるのはまだ先だが、私立高校の出願は迫ってきている。どのような結果になっても後悔しないように、ご家族でしっかりと受験校を検討してほしい。御三家の定員が削減されて2年目の入試、受験生の動向や各中学校の指導は、まだ不安定な部分を残している。育英模試の判定や志望者数を毎回注意して見ていただきたい。

富山県立高校入試まで100日を切った。後悔が残らぬように、最後まで全力で立ち向かおう。我々も、そんな受験生を最後まで応援している。合格を目指して最後まで一緒に頑張ろう！

以下、11月に行われた第4回育英模試の結果から、県内4地区の責任者より、令和6年度の入試について詳細に予想・分析していく。

澤山 剛之[富山本部校]

富山地区

探究科学科は安定の人気！ その他の県立高校も激戦！

昨年の富山地区は、富山中部普通科、富山普通科の定員削減の影響により、両校ともに高い倍率となったが、その反動で富山東の倍率が伸びない状況となった。今年は、これがどう影響するのか、11月に行われた第4回育英模試の結果を踏まえ、考察していく。

まず、富山中部と富山では探究科学科が、ともに高倍率となった昨年とほぼ同様の志望状況だ。第4回模試における両校の探究科学科の第一志望者数は、定員がそれぞれ80名に対し、富山中部は115名、富山は72名となっており、特に富山中部はすでに80名の定員を上回っている。また、富山は現時点で定員を下回ってはいるが、昨年の同回模試よりも増加している。今年は富山中部を志望していた生徒の中で志望校を下げる生徒が出始めている印象だ。安易に志望校を下げてしまっているようであれば、踏みとどまってほしい。

両校とも探究科学科の高倍率は確実で、普通科との合算では、富山中部が1.05～1.10倍、富山が1.10～1.15倍と予想する。

次に富山東を見ていこう。昨年の倍率は0.93倍となったが、これは御三家普通科の定員削減の影響により、富山東を避けた生徒が多かったためであり、かなり稀な状況である。第4回模試における志望者数は昨年よりも減ってはいるが、入試でも昨年同様の倍率になるとは限らない。また、富山中部の志望者の動向と、富山高専の入試結果次第で倍率が高くなる可能性がある。富山東は1.05～1.10倍、呉羽は1.20～1.25倍、富山南は1.15～1.20倍と予想する。

富山いずみ総合学科については、昨年の倍率が1.27倍と、ここ最近では一番低い倍率となったこともあって、第4回模試の志望者数は昨年より増加している。高倍率の傾向は変わらず、今年の倍率は1.50～1.60倍と予想する。

近年、高倍率が続いているのが富山北部である。昨年の倍率は普通科で1.61倍、くすり・バイオ科で0.62倍、情報デザイン科で1.90倍となり、学科によっては激戦となった。第4回模試における志望者数は普通科と情報デザイン科で昨年と同様の人数で推移し、くすり・バイオ科では昨年よりも増加しているので、今年も高倍率が予想される。普通科で1.60～1.70倍、くすり・バイオ科で1.05～1.15倍、情報デザイン科で1.50～1.60倍と予想する。

八尾や富山西も、第4回模試の志望者数は昨年同様で推移しているので、ともに1.00～1.05倍となるのではないだろうか。

富山工業と富山商業は、学科ごとの状況は読みづらいが、第4回模試の志望者数は昨年よりも増加していることから、全体としてとらえた場合、富山工業が1.05～1.80倍で富山商業が1.05～1.50倍というところだろう。

このように富山地区では、多くの高校で倍率が高くなることが予想される。だからといって、弱気になり安易に志望校を下げてしまうと、より厳しい状況に陥る可能性もある。これからの努力次第で克服できる部分も十分にあるので、いま自分がやるべきことは何かを考えて、高い目標をもって受験までの時間を過ごしてもらいたい。

西村 康二[城南本部校]

新川地区

比較的倍率が安定している新川地区 県立2校計35名の定員削減の影響は？

令和6年度の新川地区では、入善普通科20名、魚津工業3学科計15名の募集定員削減が発表されている。これが倍率にどう影響するのか、11月に行われた第4回育英模試の結果も踏まえ、考察していく。

まず、地区トップの進学校である魚津だが、昨年の倍率は1.01倍、一昨年が1.03倍と近年低倍率が続いている。育英模試の志望動向を見ても例年と大きな変化はなく、最終的に1.00～1.05倍になるのでは、と予想する。

次に桜井普通科だが、こちらも魚津同様、近年は低倍率が続いている。育英模試の第一志望の人数も25%ほど減少していることから、最終の倍率は1.00～1.05倍の範囲に収まるのではないか。二方、土木科と生活環境科については、推薦入試の倍率にも注目したい。昨年度は推薦入試の出願者が募集定員を下回った土木科の一般入試が0.52倍、逆に推薦定員を満たした生活環境科の一般入試が1.71倍と大きな差が出た。過去、倍率が安定している土木科の一般入試は1.05倍前後、高倍率の翌年となる生活環境科は1.00～1.30倍に落ち着くのではないか。

滑川普通科について、倍率は2年連続で1.18倍と近年人気を集めている。それに加え、第4回模試において第一志望を滑川普通科としている生徒が昨年より20%ほど増えていた。よって倍率は、1.20～1.35倍になるのではと予想する。そして昨年いずれも、一般入試で定員割れだった商業科、薬業科、海洋科だが、桜井同様に、一般入試より先に実施される推薦入試の動向に注目しよう。推薦入試においても、3学科ともに昨年度は募集定員を満たしていなかったからである。ただし、一昨年の一般入試においては、3学科全てが1.24～1.62倍の高倍率を記録しており、昨年度の定員割れは、前年の高倍率を確った結果とも言える。今年は倍率の揺り戻しが起き、それぞれ1.20～1.50倍になるのではないか。

次に入善普通科を見ていこう。募集定員が20名削減されたが、これは下新川郡内3中学の中3生徒数が30名程度減少していることによるものである。昨年度の1.14倍よりはトがり、最終的な倍率は1.00～1.10倍に落ち着くのではと予想する。そして農業科は、近年の平均的な倍率である1.20倍程度と予想する。

雄山、上市に関しては、中新川郡、滑川市の生徒たちの目が富山地区内の高校に移っており、近年低倍率が続いている。雄山普通科と上市総合学科は1.00～1.10倍、雄山生活文化科は1.05～1.20倍と予想する。魚津工業は、各学科で5名ずつの定員削減があったが、機械科が1.00～1.15倍、電気科と情報環境科は1.00～1.05倍と予想する。ただし、第一志望の学科以外でのスライド合格があることにも注意しよう。

最後に、中3生の皆さんへ。新川地区の高校は他の地区と比較すれば倍率は穏やかである。志望校合格に向け、日々の勉強を積み上げて本番に備えよう。不安を和らげたいなら、忙しさの中に身を投じるのが良い。毎年言えることだが、志望校を下げることで逆に倍率が上がり、合格が困難になるケースもある。絶対に一回のテストの失敗で、自信を失ってはいけない。むしろ、「今のうちに失敗できて良かった」「本番の前に見直しの機会がもらえた」と失敗を自分の力に変える強さがほしい。数々の失敗や間違いをし、それらを克服した先に合格は待っている。

田中 太介[滑川校]

令和6年度 富山県立高校入試募集定員・令和5年度 一般入試倍率 第4回育英模試（11月実施）における第1志望者データ・目標点［全体平均124.6点］

富山地区

高校	学科	R6入試募集定員	R5入試一般倍率	第1志望者データ 人数	最高点	平均点	目標点
中央農業	生物生産	76	0.29	1	86	86.0	70
	園芸デザイン			—	—	—	70
	バイオ技術			1	58	58.0	70
八尾	普通	160	1.01	7	123	81.7	104
富山西	普通	160	0.82	6	50	40.5	81
富山	普通	160	0.83	156	173	143.5	152
	※探究科学	80	1.71	72	189	157.6	162
富山中部	普通	160	0.56	89	192	153.2	157
	※探究科学	80	2.28	115	190	166.5	171
富山北部	普通	120	1.61	38	143	95.5	109
	くすり・バイオ	80	0.62	11	107	81.5	92
	情報デザイン	40	1.90	7	93	75.7	92
富山工業	機械工学	80	0.91	12	103	73.9	86
	電子機械工学	40	1.24	6	114	94.0	93
	金属工学	40	0.68	1	55	55.0	83
	電気工学	80	1.05	3	159	103.7	89
	建築工学	40	1.78	4	83	68.8	93
	土木工学	40	1.04	3	85	59.7	79
富山商業	流通ビジネス	80	1.03	6	94	71.7	84
	ビジネスマネジメント	40	1.15	—	—	—	98
	会計ビジネス	40	1.50	5	148	97.2	90
	情報ビジネス	80	1.10	15	97	72.8	95
富山いずみ	総合	150	1.27	52	132	94.5	114
	看護	40	1.27	11	113	82.7	106
富山東	普通	240	0.93	136	168	128.9	139
富山南	普通	200	1.15	97	160	111.1	127
呉羽	普通	230	1.22	90	149	112.2	130

新川地区

高校	学科	R6入試募集定員	R5入試一般倍率	第1志望者データ 人数	最高点	平均点	目標点
入善	普通	140	1.14	5	120	91.2	103
	農業	30	1.11	2	58	43.0	73
桜井	普通	120	1.03	27	131	98.8	119
	土木	40	0.52	2	92	77.5	82
	生活環境	40	1.71	4	112	85.5	91
魚津	普通	160	1.01	68	173	127.4	138
魚津工業	機械	35	0.90	1	50	50.0	80
	電気	35	0.38	—	—	—	80
	情報環境	35	0.69	—	—	—	80
滑川	普通	80	1.18	30	139	97.1	111
	薬業	40	0.61	6	110	84.0	92
	商業	40	0.88	7	114	86.9	93
	海洋	40	0.61	—	—	—	70
上市	総合	150	0.88	4	57	36.8	80
雄山	普通	80	0.76	4	92	67.0	87
	生活文化	40	1.00	1	44	44.0	82

国立高専

学校	学科	R6入試募集定員	R5入試一般倍率	第1志望者データ 人数	最高点	平均点	目標点
富山高専	機械システム工学	40	0.88	17	160	133.6	131
	電気制御システム工学	40	1.15	16	169	128.5	133
	物質化学工学	40	1.85	22	161	131.5	138
	電子情報工学	40	2.60	24	171	129.7	133
	国際ビジネス学	40	3.18	25	162	135.1	140
	商船学	40	1.45	5	138	118.6	117
石川高専	機械工学	40	1.70	1	124	124.0	137
	電気工学	40	1.86	—	—	—	137
	電子情報工学	40	3.17	1	177	177.0	140
	環境都市工学	40	1.67	—	—	—	137
	建築学	40	2.35	3	164	149.3	140

表の見方　R6入試募集定員…一般入試・推薦入試の総定員の数です。
県立高校のR5入試一般倍率…（一般入試受験者数）÷（一般入試募集人数）
国立高専のR5入試一般倍率…（一般入試志願者数）÷（一般入試合格者数）

◎目標点は、第4回育英模試で志望校判定がB（合格可能性が70%以上80%未満）となる点数です。平均点/124.6点（200点満点）

※富山・富山中部・高岡高校の「探究科学科」は、「理数科学科」と「人文社会科学科」2学科の総称で、入試は2学科合計の定員で募集・実施されます。

第6回育英模試（1月実施）の第1志望者数と主要高校の実際の入試倍率との相関性

高校	学科	育英模試第1志望者数 一昨年	昨年	県立高校入試 実倍率 一昨年	昨年
富山中部	探究科学	173	160	2.53	2.28
	普通	113	100	0.43	0.56
富山	探究科学	87	74	1.71	1.71
	普通	202	174	0.78	0.83
高岡	探究科学	64	52	1.00	0.96
	普通	174	140	1.10	1.04
魚津	普通	119	105	1.03	1.01
富山東	普通	171	155	1.09	0.93
高岡南	普通	115	124	1.06	1.02
砺波	普通	131	114	1.11	0.93

※実質倍率＝（一般入試受験者数）÷（一般入試募集人数）
※赤色は前年度に対して増加、青色は減少。
ただし、富山中部・富山・高岡の普通科は定員減のため比較対象外

富山県立高校入試 過去3年間 学力検査平均点

	総合	国語	社会	数学	理科	英語
令和5年度	57.7	65.3	58.2	54.3	55.4	56.2
令和4年度	60.2	75.6	63.9	53.2	55.6	52.5
令和3年度	60.6	71.0	71.7	47.0	57.0	56.3

※100点満点に換算してあります。

富山県 高校入試 育英模試 受験者数 県内No.1 ※自社調べ

前日まで申込可能！ 県内全域一斉開催！

この2回で君の志望校が決まる！

45年以上にわたる高校入試進学指導の実績が、正確で精度の高い合格判定を保証します。

育英模試受験料 1回 4,730円（税込）
費用は振込にてお支払いください。（振込手数料を別途お支払いください。）HPからのお申込みは便利なクレジット決済もご利用いただけます。（期限があります。）

中学3年生対象

【第6回】実戦模試 R6 1/7(日)

【最終回】直前判定模試 R6 1/28(日)

※状況により実施日程や方法を変更させていただく場合があります。

［第6回・最終回セット申込］直前判定セット 1回4,730円のところを 4,620円×2回 9,240円（税込）

第6回育英模試は一部の高校が志望校別会場※となります。

富山中部高校 第1志望者会場	富山高校 第1志望者会場	高岡高校 第1志望者会場	魚津高校 第1志望者会場	砺波高校 第1志望者会場
富山県農協会館	タワー111	高岡市農協会館 高岡文化ホール	新川文化ホール	富山育英センター砺波校

※上記以外の高校が第1志望の場合は「地区別」会場での受験となります。
※上記高校が第1志望でも、「地区別」会場で受験可能です。（要連絡）
※どの会場でも当日志望校調査を行い、合格可能性判定をお出しします。

富山高専は同校が会場：国立富山高等専門学校 第1志望者会場（本郷キャンパス・射水キャンパス）※志望学科により異なります。

※各会場は予定です。収容人数の都合上、会場は変更になる場合があります。あらかじめご了承ください。
※「志望校別」会場が定員に達した場合は「地区別」会場となる場合があります。
※お申込み受付後、「志望校別」会場希望有無等の確認のため、電話連絡をさせていただく場合があります。

特典「育英特待生」になれるチャンス！
「第6回育英模試」と「最終回育英模試」において、成績優秀と認められた生徒には育英センター高校部において「育英特待生」となる資格が与えられます。君も挑戦しよう!!（「育英特待生」には月謝免除や奨学金支給の特典があります。）

育英模試の結果速報をHPで公開しています！ インターネットでのお申込みも受付中！ https://www.toyama-ikuei.com

【後援】北日本新聞社・北日本放送・富山テレビ放送・チューリップテレビ 他

富山県 高校入試 育英模試 まなびドクター

模試からはじまる、あなたにぴったりな学びの提案
育英の「まなびドクター」は、模擬試験の結果（カルテ）をもとに現状の実力や弱点、今後どのような学習をすればよいのか育英センターの専任教師が診断。採点答案だけではなく、個人成績表とともに、全受験生・保護者の方に対して一人ひとり面談を行います。「模試を受けて終わり」では、せっかく受験してもあまり成果が得られません。面談でのアドバイスをもとに、学習の進め方を見直し、苦手克服や学力向上を目指しましょう。

回を重ねるごとに、正確で精度の高い合格判定！
模擬試験 高校入試に準拠した模擬試験で今の自分の実力を測ります。
面談 模試の結果をもとに勉強法や受験対策を個別でアドバイス。
実践 学習での実践によって、実力アップ！ 高校入試突破を目指します。

北陸3県に拡がる育英のネットワーク
富山本部校 076-441-8006 / 幼児部（のびのびスクール） 076-464-6933 / 小学部（富山本部校） 076-441-8004 / 中学部（本部校別館） 076-441-1200 / 高校部（2号館） 076-433-9330 / i-Personal本部（富山駅前校） 076-431-6881 / i-Veritas本部（富山駅前校） 076-442-0777
城南本部校 076-493-1120 / 魚津本部校 0765-23-0531 / 高岡本部校 0766-26-0072 / 岩瀬校 076-426-0057 / 天正寺校 076-491-7071 / 大沢野校 076-468-3777 / 婦中校 076-465-1010
滑川校 076-475-9222 / 黒部校 0765-56-9500 / 入善校 0765-74-2531 / 小杉校 0766-56-4666 / 新湊校 0766-82-2466 / 高岡駅南校 0766-26-1718 / 氷見校 0766-72-2828
砺波校 0763-33-2323 / 福光校 0763-52-8877 / 小矢部校 0766-67-5161
[石川県] 金沢本部校・県庁前校 / 金沢中央校・東金沢校 / 津幡校・小松校
[福井県] 福井本部校 / 武生校
[大学受験予備校] 富山育英予備校 076-433-2325 / 育英予備校金沢
[富山県初の小中高一貫校] 片山学園初等科 0766-92-3300 / 片山学園中学校 076-483-3300 / 片山学園高等学校 076-483-8500
[専門学校] 富山クリエイティブ専門学校 076-441-0208

英知・徳・自立を育む 富山育英センター
〒930-0005 富山市新桜町6-22 TEL076-441-8006